

小規模多機能型居宅介護事業所及び認知症対応型共同生活介護の自己評価票

(網掛け部分は外部評価の調査項目)

(別紙 3)

| 番号 | 項 目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印 (取り組んでいきたい項目) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|----|--|---|--------------------|----------------------------------|
| | 理念に基づく運営 | | | |
| | 1. 理念の共有 | | | |
| 1 | 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている | 地域との交流を図ることを理念に謳っている。 | | |
| 2 | 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し理念の実践に向けて日々取り組んでいる | 理念を職員詰所に掲示し、共有・実践を目指している。また、ミーティングや職員のセルフチェックにおいて理念が理解できているか。及び実践できているか常に再認識するようにしている。 | | |
| 3 | 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる | 毎月の通信にて、理念を明示している。 | | |
| | 2. 地域との支え合い | | | |
| 4 | 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている | 町内会に入会し、回覧板や市報などを入居者とスタッフで持って行き、その都度あいさつしたりしている。また、事業所主催の夏祭りなどのイベントに関するポスターや新聞折込チラシなどを作成し、参加を促している。 | | |
| 5 | 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一人として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている | 地域の祭りや、運動会などへの参加をしている。また、次年度には個人的に老人会への入会を考慮中である。 | | |
| 6 | 事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所々職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる | 地域の運動会などのイベントに協賛団体として寄付している。また、隣の通所施設の看護師と協力して、「健康相談」を開催し、地域の高齢者に貢献しようとしている。 | | |
| | 3. 理念を実践するための制度の理解と活用 | | | |
| 7 | 評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる | 一人ひとりに評価項目をコピーし、回答させている。その後ミーティングや事業所内研修を通じて問題点を提議し、改善策を話し合っている。 | | |
| 8 | 運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 毎回会議の中で、活動を報告し、意見交換をしている。また、会議中の意見を職員へ通達し、サービスの向上につながるよう努めている。 | | |

| 番号 | 項 目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印 (取り組んでいる項目) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-----------------|--|---|------------------|----------------------------------|
| 9 | 市町村との連携 事業所は、市町村担当者や運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる | GH協議会を通じて統括センターの方とも交流の機会があったので、それを活かしている。また、運営推進会議の委員である地域包括支援センター職員との連携も図っている。 | | |
| 10 | 権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している | 入居者の中にも成年後見人を選出している事例もあるので、ミーティングなどで職員ともども学ぶ機会がある。第三者による後見人を立てている事例もあり、預かり金の管理などより一層厳正に扱っている | | |
| 11 | 虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 虐待防止マニュアルを作成し、高齢者虐待について学習している。事業所では事例がないが、他の事例についての研修の結果を勉強会などを通じて、検討している。身体的虐待のみならず精神的虐待についても勉強している。 | | |
| 4. 理念を実践するための体制 | | | | |
| 12 | 契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 契約時には、契約書や重要事項説明書などの書類を冊子にして保管しやすいようにし、説明時間も十分にとっている。また、疑問な点についても納得されるまで、十分に説明している。 | | |
| 13 | 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 月に2回相談員の訪問があり、外部者への苦情を受け付けやすいようにしている。また、ふと漏らす一言なども逃さないようにしている。 | | |
| 14 | 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている | 毎月の通信にて日々の様子を写真で知らせたり、その際近況を書いたハガキも同封して、家族に知らせている。金銭管理については、各自出納帳をつけ管理している | | |
| 15 | 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 重要事項説明書に苦情申し立て機関を明示している。 | | |
| 16 | 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 月に2回相談員の訪問があり、外部者への苦情を受け付けやすいようにしている。また、ふと漏らす一言なども逃さないようにしている。 | | |
| 17 | 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている | 職員・利用者双方に負担のかからないように、勤務時間や勤務体制を常に考慮し、調整している。 | | |
| 18 | 職員の異動等による影響への配慮 運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている | 離職や異動を最小限にするように心がけているが、離職する場合早急に職員を採用し、引継ぎが行われるまで、退職しないようにしている。 | | |

| 番号 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印 (取り組んでいきたい項目) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|----|--|--|--------------------|----------------------------------|
| | 5. 人材の育成と支援 | | | |
| 19 | 人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している | 資格や経験にとらわれることなく、グループホームで働くうえでの熱意・やる気を重視した採用をしている。 | | |
| 20 | 人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる | 認知症高齢者に対する権利擁護の意識を持つように教育している。 | | |
| 21 | 職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 新人研修プログラムを作成し、わかりやすく覚えられるように計画的に行っている。また、社内勉強会やGH協議会の新人研修さらに北九州市主催の研修にも積極的に参加するように促している。 | | |
| 22 | 同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 福岡県GH協議会に入会し、同業者との交流を図ったり、施設見学をさせてもらったりしている。今年度は協議会の役員でもあるので、より一層活動の幅が広がっている。 | | |
| 23 | 職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる | 休日はきちんと取れるように工夫し、連休を必ず月に一回は設け、リフレッシュを図っている。 | | |
| 24 | 向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている | 自己チェック表を作成し、常に向上心をもっているかを確認したり、各自の努力目標を提出してもらう。 | | |
| | 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | |
| | 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応 | | | |
| 25 | 初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている | 施設見学や問い合わせがあったときには、連絡先を記入して頂き、特に予約のあった利用者には事前に面会するなどの機会を持ち、コミュニケーションを図っている。 | | |
| 26 | 初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている | 見学に来られた方には、アンケートに答えて頂き、定期的に連絡してほしいかどうか確認をし、後日時間を取ったり、見学時に話をする時間を取るようにしている。 | | |
| 27 | 初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 相談者には、現状を説明して頂き、事業所として満床などで対応できない場合、他の施設を紹介したり、在宅で負担のかからないようなケアができるようにケアマネを紹介したりしている。 | | |

| 番号 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印 (取り組んでいきたい項目) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|----|--|---|--------------------|----------------------------------|
| 28 | 馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している | いきなり開始するのではなく、体験入居という形で施設に慣れていただくなどの対応をしている。 | | |
| | 2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援 | | | |
| 29 | 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている | 一人ひとりの能力に合わせて、家族の一員としての役割を担って頂き、一緒に生活をして頂くようにしている。またセンター方式のシートを活用し、ご本人の意向が反映されたケアに取り組んでいる。 | | |
| 30 | 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている | 面会時間を設定せず、自由に訪問できる環境にしている。面会時には職員も交えて話しをするよう心がけている。また、面会の少ない入居者には、ご家族に働きかけ、家族との交流も密に図れるように努力している。 | | |
| 31 | 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している | 入居時に本人と他のご家族との関係をよく聞き、図式化したりして多くの情報を得るようにしている。 | | |
| 32 | 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 本人の希望で、自宅までお連れして周辺を一緒に見たり、近所の方の訪問があったりしている。 | | |
| 33 | 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている | 食事の席順や、リビングだけでなく仲の良い利用者同士が邪魔されず会話ができるようなスペースを設けている。 | | |
| 34 | 関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている | 入院などで、退所された方々には定期的にお見舞いに行ったり、他の施設に変わったかたは、職員が遊びに行ったりして関わりを継続するようにしている。 | | |
| | その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | |
| | 1. 一人ひとりの把握 | | | |
| 35 | 思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | センター方式によるケアプランの作成をし、一人ひとりのニーズの把握に努めている。 | | |
| 36 | これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | センター方式によるケアプランの作成をし、一人ひとりのこれまでの生活歴や環境について多くの情報を得るように心掛けている。 | | |
| 37 | 暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている | センター方式によるシートを導入し、一人ひとりのできる事・できない事シートを活用して現状の把握に努めている。 | | |

| 番号 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印 (取り組んでいきたい項目) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|----|--|---|--------------------|----------------------------------|
| | 2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し | | | |
| 38 | チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している | 入居時にケアマネとご家族や関係者と面接をし、ニーズの掘り起こしを行い、ケアプランを作成している。 | | |
| 39 | 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している | ケアカンファレンスを随時行い、ケアプランが実施できているか、また見直しが必要であるかなどを話し合う場面を設けている。 | | |
| 40 | 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 毎日の処遇記録に職員全員で情報を共有できるように記録の書き方を統一している。また、小さな変化も見逃さない目を持ち、記録に残し職員間で検討している。 | | |
| | 3. 多機能性を活かした柔軟な支援 | | | |
| 41 | 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている | 自宅を見たいと言う入居者の意見があれば、車で自宅までお連れしたり外泊の要望があれば、準備をしたりしている。 | | |
| | 4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働 | | | |
| 42 | 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している | 年末には、地元の消防団と餅つきをしたりして交流をしている。また、家族会のイベント時にボランティアを頼んで歌や踊りなどをしてもらっている。 | | |
| 43 | 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話しあい、他のサービスを利用するための支援をしている | 現在、歯科受診ができない入居者のために訪問歯科を頼んでいる。 | | |
| 44 | 地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している | 地域包括支援センターの職員の方に運営推進会議のメンバーになってもらい意見交換をしている。 | | |
| 45 | かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 入所以前からの主治医の意見を聞き、同時に家族からの既往歴なども詳しく聞いて適切な治療をするようにしている。 | | |
| 46 | 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している | 認知症に詳しい医師を提携協力医院として提携していて、その医師の意見に従って紹介状を書いてもらったり他の医療機関に紹介してもらったりなどの適切な措置を講ずるようにしている。 | | |

| 番号 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印 (取り組んでいきたい項目) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|----|---|---|--------------------|----------------------------------|
| 47 | 看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている | 事業所の介護支援専門員が看護師の資格を有する者であるので、相談しながらやっている。また、併設施設においても看護師がいるので、相談している。 | | |
| 48 | 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している | 入院した場合は、服薬の状況や身体状況について詳細を入院先に知らせ、できるだけスムーズな治療が行われるように心掛けている。入院時には病院を訪問し、状況把握に努めている。 | | |
| 49 | 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している | かかりつけ医の指示に従い、医療機関へ入院の措置を取っている。 | | |
| 50 | 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている | グループホームで対応ができる限り、医師やケアマネの意見を聞き、チーム支援を心掛けている。 | | |
| 51 | 住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている | 転居先へ現在の状況をなるべく詳しく伝え、関係者間で連絡を取り合う。また、退所サマリーを用意し、転居先の関係者に渡すようにしている。 | | |
| | その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | |
| | 1. その人らしい暮らしの支援 | | | |
| | (1) 一人ひとりの尊重 | | | |
| 52 | プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない | 常に年長者(人生の先輩)であるということを忘れずに、お世話をさせていただいているという気持ちを持っている。 | | |
| 53 | 利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている | 服を選ぶ際には、自分で意思決定ができるような働きかけをしたり、自由に行動できるように見守る体勢を作っている。また思いを受け止めるためのコミュニケーションの仕方や自己決定を誘導する声かけの勉強会などを行っている。 | | |
| 54 | 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | センター方式を利用し、一人ひとりのできる事・出来ない事をきめ細かく分析し、生活パターンや興味のあることを職員全員で理解し、毎日活気ある生活を送っていただけるようにしている。 | | |

| 番号 | 項 目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印 (取り組んでいきたい項目) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|----|---|--|--------------------|----------------------------------|
| | (2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援 | | | |
| 55 | 身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている | 本人の行きつけの美容院がある場合には、家族と連携してお連れしている。 | | |
| 56 | 食事を楽しむことのできる支援 重食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 既往歴などで、摂取ができない食品や健康状態を考慮しながら、食事を楽しんでいただくようになっている。また、片付けなどできる方には積極的に参加してもらっている。 | | |
| 57 | 本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している | お酒・たばこの支援はないが、好みの飲み物やおやつは毎日提供している。また、手作りのおやつと一緒に作って食べたりする機会も持っている。 | | |
| 58 | 気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している | 一人ひとりの排泄リズムの把握に努め、失敗のないよう声かけ誘導したりしている。また、恥ずかしくないような配慮をしている。衣類を触ったり、ソワソワしたりするような小さな行動のサインを見逃さないように心がけている。 | | |
| 59 | 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している | 毎日(日曜除く)入浴できるような体勢を作り、その日の体調や気分に応じて無理強いせずに入浴して頂く。拒否の多い入居者には負担のない声かけを続け、清潔保持を心がけている。 | | |
| 60 | 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している | 全室個室になっており、自由に出入りできるの用に施設もしないので、安心して自室にて休憩や睡眠ができる。 | | |
| | (3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援 | | | |
| 61 | 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている | 掃除機かけや洗濯物たたみ、食器洗いなどの家事やガーデニングなど一人ひとりの能力や好みに合わせて参加していただいている。施設に犬を飼い、散歩などの触れ合いができるようにしている。 | | |
| 62 | お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 現在自身で金銭を管理できる入居者は、一人のみであるが、他の方々は一緒に買物などに行き、「お金を支払う。」という行為をしてもらっている。銀行や郵便局での簡単な手続きも手伝っても | | |
| 63 | 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している | 施設せず、いつでも戸外で活動できるようにしている。また、こちらからもなるべく外の空気に触れられるように促している。 | | |
| 64 | 普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している | 年間行事として、花見やぶどう狩り・温泉旅行などの遠出を計画し、ご家族の参加も募っている。また、個別に馴染みの神社や自宅までお連れしている。外食やピクニックなどにも出かけている。 | | |

| 番号 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印 (取り組んでいる項目) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|----|--|---|------------------|----------------------------------|
| 65 | 電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 現在手紙を書ける入居者はいないが職員が手伝って返事を書いたりしている、電話はかかってきた時には自由に自室にて話せるように子機で受信している | | |
| 66 | 家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるように工夫している | 個室のため、訪問があった場合には各居室にて自由に過して頂いている。お茶などをお持ちする以外はこちらからは訪室しないようにしている。 | | |
| | (4) 安心と安全を支える支援 | | | |
| 67 | 身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる | マニュアルを作成し、身体拘束について勉強している。現在身体拘束の事例はない。 | | |
| 68 | 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる | 玄関には夜間以外は施錠をしていない。 | | |
| 69 | 利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している | 常に職員が建物全体を見渡し、所在確認をし、見守りをしている。 | | |
| 70 | 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている | 危険を伴うものは、管理しながら必要に応じて職員とともに使用している。薬品や洗剤などは誤って使用することのないように注意している。 | | |
| 71 | 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる | 設備面としては、入居者の動線に手すりを設け転倒の予防をしている。また、消防訓練や夜間を想定した避難誘導訓練を実施している。 | | |
| 72 | 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている | 電話の近くに救急車を呼ぶときの、対応の仕方のマニュアルを掲示したり、救急対応マニュアルを作成している。 | | |
| 73 | 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている | 定期的に消防訓練を行い、避難誘導の訓練及び退避場所の確認をしている。またマニュアルを作成し対処できるように心がけている。 | | |
| 74 | リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている | ケアプランの説明時に一人ひとりのリスクについて、ご家族に説明をしている。また、見守りがかさず抑圧感がないようにしている。 | | |

| 番号 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印 (取り組んでいきたい項目) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|----|--|--|--------------------|----------------------------------|
| | (5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援 | | | |
| 75 | 体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている | 毎朝、バイタルチェックをし、体調の変化に気を配っている。また、顔色や排泄の具合などに注意を払い、サインを見逃さないようにしている。何か気になることがあれば、申し送りの際に他のスタッフに注意を促している。 | | |
| 76 | 服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 服薬管理表を作成し、毎日の服薬状況を把握している。また、一人ひとりの服薬についての情報も整理して分かりやすいようにしている。1回分の薬の袋に必ず記名をし、間違いのないようにしている。また、テーブルに置いたままにしないで、手渡しをし、 | | |
| 77 | 便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる | 排泄チェック表を作成し、排泄リズムの把握に努めている。また便秘の入居者には、適時薬などで排便を誘導する。また、牛乳やバナナなど便通によい食物の摂取も心がけている | | |
| 78 | 口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている | 毎食後口腔ケアを行っている。自力でケアできる入居者でも最後に必ず職員によるチェックを行い、みがき残しがあれば手伝っている。また、訪問歯科の往診している。 | | |
| 79 | 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 食事の摂取量、水分摂取量はチェック表にて記録に残して、注意している。また、嚥下障害のある入居者にはやわらかめの飲み込みやすい食事になっている。 | | |
| 80 | 感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等) | 紙タオルを設置したり、共同で使うバスマットやおしぼり類は毎日洗濯している。インフルエンザに対しては、主治医と協力して、11月初旬には予防接種を行って、感染症対策をしている。 | | |
| 81 | 食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている | 調理用具の消毒を定期的に行い、点検簿に記録している。また食品庫・冷蔵庫内の食品のチェックを行い、期限切れの場合は処分している。 | | |
| | 1. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり | | | |
| 82 | 安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りできるように、玄関や建物周囲の工夫をしている | 常に明るい雰囲気作りを心がけ、玄関周りには季節感を感じられる置物を置いたりして、工夫している。 | | |
| 83 | 居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 玄関以外は引き戸になっており、開け閉めする際には大きな音がでないようにしている。また、乱暴に使用しても耳障りな音がでないように消音テープを貼っているところもある。季節感が感じられるように壁の飾りつけなどにも工夫している。 | | |

| 番号 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印 (取り組んでいきたい項目) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|----|---|--|--------------------|----------------------------------|
| 84 | 共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | リビング以外にも三人掛けのイスを用意し、独りになれたり、気の合う方々で集まることもできる。また、野外にもテーブルとベンチを置き、お茶などを楽しめるようにしている。 | | |
| 85 | 居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 居室は、仏壇などの火気のあるもの以外は馴染みのものをもってきてもらっている。また、担当者を決めて各居室を飾り、居心地のよいような工夫をしている。異食行為や小物をバラバラにしてしまう方には、置き場所を工夫している。 | | |
| 86 | 換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている | 天気のよい日は必ず全居室窓を全開にして、空気の入れ替えをしている。エアコンを上手に利用し空調管理をしている。冬は床暖房を設置し、安全で快適な暖かさを提供している。 | | |
| | (2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり | | | |
| 87 | 身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | バリアフリー設計にしており、どこへでも不自由なく動けるようにしている。また、玄関にはイスを設置し、靴の着脱が無理なくできるような配慮をしている。 | | |
| 88 | わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している | 認知症の方の心に寄り添い、「説得より納得」という態度を心がけ、混乱や失敗があっても、寛容な態度で臨むように心がけている。できる事・できない事の個々の状況を職員全員が把握しているようにしている。 | | |
| 89 | 建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている | 家庭菜園やガーデニングができるようにしたり、外でのお茶を楽しんだり、安全に散歩ができる散歩コースを考えたり、より活動的になれるように心がけている。 | | |

| . サービスの成果に関する項目 | | 最も近い選択肢の左欄に をつけてください。 | |
|-----------------|--|-----------------------|--|
| 項 目 | | | |
| 90 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる | ほぼ全ての利用者の | |
| | | 利用者の2/3くらいの | |
| | | 利用者の1/3くらいの | |
| | | ほとんど掴んでいない | |
| 91 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある | 毎日ある | |
| | | 数日に1回程度ある | |
| | | たまにある | |
| | | ほとんどない | |
| 92 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている | ほぼ全ての利用者が | |
| | | 利用者の2/3くらいが | |
| | | 利用者の1/3くらいが | |
| | | ほとんどいない | |
| 93 | 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている | ほぼ全ての利用者が | |
| | | 利用者の2/3くらいが | |
| | | 利用者の1/3くらいが | |
| | | ほとんどいない | |
| 94 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている | ほぼ全ての利用者が | |
| | | 利用者の2/3くらいが | |
| | | 利用者の1/3くらいが | |
| | | ほとんどいない | |
| 95 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている | ほぼ全ての利用者が | |
| | | 利用者の2/3くらいが | |
| | | 利用者の1/3くらいが | |
| | | ほとんどいない | |
| 96 | 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている | ほぼ全ての利用者が | |
| | | 利用者の2/3くらいが | |
| | | 利用者の1/3くらいが | |
| | | ほとんどいない | |
| 97 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています | ほぼ全ての家族と | |
| | | 家族の2/3くらいと | |
| | | 家族の1/3くらいと | |
| | | ほとんどできていない | |

| 項目 | | 最も近い選択肢の左欄に をつけてください。 | |
|-----|---|-----------------------|-------------|
| 98 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている | | ほぼ毎日のように |
| | | | 数日に1回程度 |
| | | | たまに |
| | | | ほとんどない |
| 99 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている | | 大いに増えている |
| | | | 少しずつ増えている |
| | | | あまり増えていない |
| | | | 全くいない |
| 100 | 職員は、生き活きと働けている | | ほぼ全ての職員が |
| | | | 職員の2/3くらいが |
| | | | 職員の1/3くらいが |
| | | | ほとんどいない |
| 101 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | | ほぼ全ての利用者が |
| | | | 利用者の2/3くらいが |
| | | | 利用者の1/3くらいが |
| | | | ほとんどいない |
| 102 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | | ほぼ全ての家族等が |
| | | | 家族等の2/3くらいが |
| | | | 家族等の1/3くらいが |
| | | | ほとんどできていない |

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

ICFの視点に立ったセンター方式によるケアの実践を目指して、いわゆる”ミニ特養”にならないように、入居者一人ひとりのできる事・やりたい事・希望などを、訴えることのできない方々には日々の生活の中で見つけ出して、生活機能の維持・改善につながるケアに取り組んでいる。常に、現状に満足することなく、職員一人ひとりが「グループホームとは何か。」、「介護者の側でなく、入居者の立場の介護とは。」と考えながら日々の介護にあたっている。